

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン	
<p>本市には、開発面積約1,500haを有し、昭和40年代に供給開始された泉北ニュータウンが立地している。泉北ニュータウンの人口は、本市南区の約80%以上を占めているものの、若年層の転出等により、平成4年の約16.4万人をピークに減少を続けている。</p> <p>平成30年3月現在の高齢化率は34.2%で、堺市全体の27.6%に比して高い水準にある。また、将来推計においても、2030年の人口は、10万人を割り、高齢化率も40%を超えると予測している。</p> <p>さらには、計画的に配置されていた商業施設等の撤退や高低差の大きい地理的要因等により、地域住民の日常の買い物等が困難となっている。</p> <p>このような状況の中、本市は、SDGs未来都市として、誰一人取り残さない社会の実現に向け、「泉北ニュータウンの再生」を先導的取組と位置づけ、泉北ニュータウンが、誰もが笑顔でいきいきと活躍できる持続発展可能なまちとして再生することをめざしている。</p>	
(2)新技術の導入により解決したい都市の課題	
※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>■高齢者の日常生活拠点間の円滑な移動支援、買い物困難者支援</p> <p>泉北ニュータウン地域には、公共交通として、泉北高速鉄道があり、「泉ヶ丘、柁・美木多、光明池」の3駅を拠点としたまちが形成されている。またこれらの各駅からは、路線バスが整備されており、ニュータウン内を循環するもの、ニュータウン内外を結ぶものがあり、バスの利便性が高い地域である。</p> <p>公共交通ネットワークが充実している一方で、地域住民の高齢化に加え、坂道の多い地域特性もあり、バス停や商業施設等(近隣センター)、日常の生活拠点間の移動が課題となっている。</p> <p>これらいわゆる「ラストワンマイル」の移動手段を整備することで、特に高齢者の日常生活拠点間の円滑な移動が可能となる。</p>	ア、オ
<p>■スマートコミュニティの実現</p> <p>環境モデル都市として、ゼロエネルギータウンを実現した「晴美台エコモデルタウン」などスマートコミュニティの推進を図ってきた当地域において、地域のエネルギー資源の有効活用や非常時のエネルギー確保のニーズに対応する、IT技術を活用した「スマートコミュニティの実現を図る。</p>	イ、ウ、ク
(3)具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)	
<p>(2)に記載の課題を解決するために、次世代(自動運転)モビリティの導入を検討している。</p> <p>団地内の狭隘な道路でも走行可能な超小型モビリティ(2人乗り)に自動運転機能を搭載、給電忘れを防ぐことができるワイヤレス給電システムを組み合わせ、レベル3相当での実証実験を構想中である。</p> <p>また、スマートコミュニティの実現に関し、エネルギー管理システムや蓄電池等のIT技術の活用(VPP、V2X等)について検討中である。</p>	
(4)解決の方向性(イメージでも可)	
事業実施にあたっては、公民連携組織による推進を検討している。	
(5)その他	

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
市長公室 企画部 政策企画担当	藤川・金田	072-222-0380	seisaku@city.sakai.lg.jp